

塩治
地区

第 94 号

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩治地区社会福祉協議会 事務所 塩治コミュニティセンター内 TEL 21-0248
 塩治社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

障がい者差別解消法研修会及び手話講習を開催

平成 31 年 1 月 20 日 (日)、塩治コミュニティセンターにおいて、障がい者差別解消法研修会及び手話講習を参加者 36 名で開催しました。

障がい者差別解消法研修会の講師は出雲市の福祉推進課障がい者福祉係の主事 布野晃平さんです。障がい者差別解消法の内容及び出雲市の現状と取り組みについて、説明していただきました。出雲市には約 16 人に 1 人は何らかの障がいを持った方がおられると知り、思った以上の数に驚くとともに、その方たちのことについて、あまり分かっていないと改めて考えさせられました。

特に心に残ったのは、「心のバリアフリー」の大切さについてです。お互いに違いを認め合い、誰もが利用しやすい環境づくりはもちろんですが、「お互いの個性を尊重し、相手の気持ちを察すること、相手が何を期待して何を求めているのかを知ること」がとても大切だということを話されました。

そして、自分が得た「障がいへの理解」を職場や家庭、友人など、他の誰かと共有し、何より具体的に行動を起こすことが「心のバリアフリー」への第一歩だということでした。

続いての手話講習会は、出雲市の福祉推進課障がい者福祉係の庄司久美子さんと出雲市聴覚障がい者協会の小村憲昭会長が講師です。

まずは基本となる挨拶の手話を、続いて簡単な受け答えを教えていただき、最初は全員で、次に隣の人や小村会長と二人組みになってやってみました。

この中で感じたのは、自分は手話は分からないから、あるいは手話は出来ないからと拒絶するのではなく、少しでも相手の動作や手話から何を言いたいのかを想像し、相手に関わろうと努力する気持ちが大切なのだという事です。

講習会終了後、身近に聴覚障がい者がおられるという参加者の方が、「今日はすごく勉強になりました。これからは、今日教えてもらった手話を一つでも使って、その人に関わっていきたいです。」と笑顔で話しておられたのがとても印象的でした。

(障がい者福祉部 加茂喜美江)



「心のバリアフリー」を検索！

首相官邸 政策会議のホームページがとても参考になります。動画やたくさんの資料、QR コードからご覧ください！



出雲西高の部活動

インターアクトクラブとの福祉座談会

3月9日(土)、出雲西高等学校において、創部53年の歴史を持つ部活動「インターアクトクラブ」の部員たちと塩冶社協との意見交換会を行いました。



部活動では①地域奉仕活動、②国際活動、③環境保全活動をテーマに、障がい者施設や保育園等での活動、長年継続している海岸清掃、宍道湖浄化のためのヨシの植栽、EM菌を培養して川や池の水環境をきれいにするといった様々な活動を行っているとのことでした。

最近報道されましたが、山陰海岸のマイクロプラスチックの現状を調査した論文が高校生小論文コンクールの最優秀賞となり、全国から注目されています。高校生ですが、大人でも出来ないことを幅広く活動していることを聞き、感心すると共にとても嬉しい気持ちになりました。

部員たちから「日常でもボランティアを行っているが、学校を卒業してもボランティアを続けて行きたい。また社協活動の手伝いが何か出来ないか？」との声もあり、とても良い座談会となりました。(広報広聴部)

話食交流会(ひとり暮らし高齢者料理教室)

2月20日(水)、今年度2回目の“ひとり暮らし高齢者料理教室”が塩冶コミュニティセンター調理室において、講師に吉田佳奈菜養士さんを迎え、参加者14名とこじんまりでしたが、とても楽しく行われました。

皆さんおしゃべりを楽しみながら、“アッ”という間にできあがりです。そんな中でいつも参加して、手際よく楽しそうに作っていらっしゃる男性の方に想いや感想を書きいただきました。(取材：広報広聴部)



大正海上 サロン会

お正月用にしめ縄づくり!

11月29日(木)、ドレミホールにおいて、今年度3回目のサロン会を参加者11名により、お正月の玄関用しめ縄作りを行いました。しめ縄を作るのは皆さん初めてとのことで、先生にわからないところを聞きながら、2人1組で藁を編んで貰いました。

玄関用が完成したところで食事をとって終わる予定でしたが、「お弁当は持って帰って食べるから神棚用も作りたい!」と皆さんに言われ、



そのまましめ縄作りを続行…。時間いっぱいを使って、玄関用と神棚用の2つを作りました。皆さん初めて作ったとは思えないぐらいの上出来に仕上がっていました。

皆さんからは「初めて自分で作ったしめ縄を玄関に飾り新年を迎えられる」「来年もやって貰いたい」と、皆さんには大変喜んでいただきました。(理事 川上卓也)



【今日のレシピ】

- ・人参ごはん
- ・白菜の和風グラタン
- ・ごぼうとしめじの柚子胡椒和え
- ・桜菜汁
- ・甘酒・プリン



『話食交流会に参加して』

私は10年くらい前から、他の料理教室にも参加させていただいていますが、初めは“うまく出来るだろうか。”とか恥ずかしさと抵抗感がありましたが、数を重ねることに慣れて、今では楽しみにしています。

1テーブル4～5人で作るので、わからないことは聞くことも出来、おしゃべりしながらの楽しいひとときです。習ったものをすべて作ることは無理ですが、自分の好きな料理の方法・食材の選び方など参考になることがたくさんあり、勉強にもなります。

一人でするのは面倒でもみんなで作るのは楽しいものです。気軽に食事に行く感覚で、一人でも多くの人に参加していただき、仲間が増えることを楽しみにしています。

(菅沢の参加者より)

12月23日(日)の祝日、今年2回目のサロン会はミニ門松作りを行いました。小雨模様の肌寒いなか 34名の皆さんに参加いただき、準備運動で身体を温めて作業の開始です。

百寿会の方々によるミニ門松の作成手順の説明を聞き、さっそく二人一組になり、三本の竹の配置を決めたり、松の長さの調整や飾り付けをしたり、皆さんそれぞれ創意工夫をこらした門松を作ることができました。

皆さん門松作りに一生懸命・・・、熱気をつけていた暖房もとめるほどでした。完成した立派な門松を前に記念写真を撮らせていただきました。



その後にはやすらぎ会のみなさんに準備いただいた大盛りの美味しい豚汁とおにぎりでお腹もいっぱいになり、楽しいひと時をすごさしてもらいました。

朝早くからご協力いただいた百寿会、やすらぎ会様ありがとうございました。(宮松理事・築山理事)

12月21日(金)、西新町に完成したトキの展示施設の試験公開に合わせ、年忘れサロン会を行いました。公開施設はしまね花の郷から連絡通路を通して入館します。



ガラス張りの観察室からは飼育ケージが見渡せ、観察用の双眼鏡も置いてあります。真っ白い羽根に黒く長いくちばし、ほぼ写真でしか見たことのなかった特別天然記念物のトキが目の前にいます。公開されているトキは4羽で何れもオス、寒いのか2羽ずつ止まり木の上でじっとしています。説明ではエサは人工飼料のほか、生き餌のドジョウを与えているとのこと、トキはこれから繁殖期に向かい、羽根の色がだんだん黒くなっていくそうです。

出雲市がトキの人工繁殖に取り組んで約8年、これまでに37羽のひなが佐渡へ送られ、既に300羽以上が野に放たれ、自然繁殖が進んでいるそうです。天然記念物だけど割と普通の鳥だったトキが出雲の空を飛ぶ日がくるといいねとそんな話題で盛り上がりました。(理事 布野達也)



12月6日(木)、揚集会所において参加者20名で平成30年度最後のサロン会を三部構成で行いました。

第1部は大田市在住で出雲市社協の大迫慎二郎氏を講師に、昨年4月9日に発生した大田市の地震の実体験談とその混乱のなかで思ったことや、教訓として日頃心掛けべき様々な事について話していただきました。そして被害の現場で感銘を受けたことは、市職員の深夜にまで及ぶ災害への対応や復旧への取り組み、自らも被災者であるにも関わらず、それは職制を超越した公僕としての使命感や誇りさえも感じられたそうです。

なぞかけやゲームも交え、ユーモアとわかりやすい語り口に皆さん引き込まれ、聴き入っておられました。



第2部は音楽療法士の金築朋子さんを招いて、昔懐かしい童謡をみんなで合唱をしました。歌に合わせてリズム運動が加わり、まず手を上げ横に開き、最後に手拍子ポン! ムム・・・これはあんがいむずかしいゾ・・・!

さらには出雲弁での“替え歌”です。童謡“七つの子”「可愛い可愛と鳴くんだよ」が“カラスは可愛くないけん”とか「可愛い目をしたいい子だよ」は“おぞげな目をしたボロ子だよ・・・”等、いかがでしょう!!

第3部は恒例の“おそば昼食会”です。

にぎやかなおしゃべりと笑いにより、年の瀬をみんなで楽しく過ごしていただけたました。

(理事 矢田邦雄)



ご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から塩冶地区社会福祉協議会に対し、香典返し及びご寄附をいただきました。

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。

今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

(12月1日から2月28日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名	故人名	区域名	寄附金額

※ 掲載欄の — は、掲載を希望されない方

***** 編集後記 *****

昨年の豪雪と打って変わり、今年は暖冬でいつの間にか春を迎えたような気がします。有原公園の硬かった桜の蕾も日に日に膨らんできました。満開の桜の花見で賑わう日も近いでしょう。

広報広聴部に入り、早1年が過ぎようとしています。慣れない社協便りの発行に携わってみると、思った以上に大変な作業で付いて行くのがやっとでした。次年度は平成から新しい元号に変わります。心を新たに、気軽に読んでいただけるような社協便り作りに取り組みたいと思います。

(理事 廣澤ますみ)

この「地区社協便り」は、出雲市社会福祉協議会からの助成金を財源の一部として発行しております。

日本文化体験の集い 外国の子どもたちとちらし寿司づくり

青少年育成部では、塩冶地区で増加する外国籍の子どもたちへの支援策として、日本文化の理解講座を開催しています。夏には日本の昔遊び体験、冬には伝統的な食づくり体験を子どもたちと一緒に楽しんでいます。

2月8日(金)、塩冶コミュニティセンターの調理室に様々な国籍の子どもと保護者、ボランティアなど45人が集まりました。

今年の食づくり体験は、ちらし寿司で「デコレーション寿司」を作ります。講師の来間理智子先生には、簡単に作って見た目も楽しいお寿司を教えていただきました。



紙のお皿の上に牛乳パックを輪切りにした枠を置き、その中にすし飯と具材を交互に詰めていきます。最後に牛乳パックを外すとカラフルちらし寿司(押し寿司)の完成です。お父さんお母さんと一緒に作る料理が楽しくて、テーブルからは子どもたちの歓声が上がります。

出来上がったお寿司の上に錦糸卵や絹さや、サケのそぼろ、エビなどをきれいに飾り、さっそくみんな美味しくいただきました。



出雲市では新年度から外国人の定住対策事業が充実されますが、私たちの取り組みも市民レベルの定住対策として行政と連携していく方法はないだろうか、楽しそうに帰っていく子どもたちを見ながらそんなことを思いました。

(青少年育成部 布野達也)